

## 磯一椿島の藻場

地元の人に青島と呼ばれることもある椿島は、南三陸・海のビジターセンターから見える無人島です。椿島自体も人目を引きますが、本当の自然の驚異はこの島の周辺、志津川湾の水面下にあります。そこは、正に海藻の森です。この水中の森には、魚、カニ、エビ、タツノオトシゴ、ヒメイカ、クラゲなど、多種多様な生物が生息しています。

海藻自体も多様で、それぞれの海藻は独自の特徴を持っています。ワカメとマコンブは両方茶色の海藻で、日本料理によく使われます。また、アマモをはじめとして、長さ数メートルにまで成長し、他の海の生物に養分とすみかを提供する数々の海草も生育しています。

南三陸・海のビジターセンターは、海藻の森の植物に触れてみたい人のために、色々な種類の海藻を使ってポストカードを作るワークショップを提供しています。